実践事例

（福祉）東海中学校　１年

岡崎特別支援学校との交流

５月～１１月（２０時間）

１　ねらい

県立岡崎特別支援学校との交流会を中心とした障がい者理解、福祉体験学習を行うことで、相手を思いやる心を育て、より多くの仲間と心と心のかかわりが持てるようにする。

２　実践の概要

（１）活動計画

	○　生徒の思いや願い	○　活動内容
一学期 7～	**岡崎特別支援学校との交流を通して，心を広げよう（20）**	
	・小学校での活動は楽しかったよ。 ・小学校で福祉の体験をしてきたよ。	・お互いの小学校の活動を振り返る。 ・福祉体験に関することを共有化する。
	交流の目標を考え，第1回岡特交流を成功させよう（3／20）	（課題設定力）
	・岡特交流のテーマを考えよう ・岡特生のことを知り，接し方や関わり方について考えてみよう。 ・第1回の岡特生との交流を成功させたいな。	・交流を成功させるために，学級や個人の目標を立てる。 ・岡特生との接し方や，学級の出し物について考える。
	第1回岡特交流でお互いのよさをわかり合おう（4／20）	
	・実際にかかわってみると，岡特生の良さがよくわかるよ。 ・また岡特生に会いたいな。	・岡特生が準備したレクリエーションや会話などを通し、互いにかかわり合う。
	第１回の反省を生かし，第2回岡特交流を成功させよう（4／20）	（課題追究力）
	・交流で，よかったところや反省点を出し合おう。 ・改善点をもとに，第2回交流会を成功させよう。	・第1回交流でよかった点，改善点を出し合い，共有化する。 ・これからのよりよい交流活動のために，アイデアを出し合う。
	第2回岡特交流で、岡特生との絆を深めよう（4／20）	
	・第2回岡特交流で，岡特生がたくさん笑ってくれたよ。 ・一人一人の良さがわかってきてうれしいな。	・レクリエーションや出し物を準備し、岡特生が楽しむことができるようにかかわり合う。
二学期 13～	**交流活動の様子をみんなに知らせよう（3／35）**	（自己表現力）
	・交流活動のよさをみんなに知らせたいな。 ・これからも交流を続けていきたいな。	・交流活動や福祉について，学んだことや調べたことを整理する。 ・整理したことを発表する。
	1年間の活動を振り返ろう（2／35）	
	・交流活動で学んだことを忘れずに，人のいいところを認められるようになりたいな。 ・困っている人たちに僕たちができることって何があるだろう。	・これまでの活動を振り返り，自分ができそうな活動や行動を考える。

（２）実践

本校での岡崎特別支援学校との交流会（以後岡特交流）は30年以上続いており、本校１年生の特色ある活動の一つとなっている。入学した生徒たちの中で、岡特交流を楽しみにしている生徒も多くいる。岡特交流の実行委員を募集すると多くの生徒が立候補した。実行委員が中心となり、岡特交流の企画、運営をした。岡特生と一緒に笑い合って絆を深めたいという願いを込めて岡特交流のテーマを「みんなともだち！ニコニコ笑顔で広がる輪」とした。

第１回岡特交流会は岡崎特別支援学校に東海中の生徒が行き、交流をした。東海中生が自分たちとかかわり合いながら楽しめるように、と岡崎特別支援学校の生徒（以後岡特生）が先生と相談しながらレクリエーションを準備してくれていた。障がいの種類や程度によって準備されているものは異なっていたが、生徒たちは岡特生の手を引いたり、段差を避けて車いすを引いたりするなど、温かく関わろうとする姿が見られた。しかし、あるグループが実施したサッカーでは、東海中の生徒が岡特生のことを考えず、自分勝手に楽しんでしまい、その様子を見た岡特生は怖がってしまったようだった。自分だけがよければいいのではなく、相手のことを考えながら一緒に楽しむことができるようにならなくてはならないということは、第２回交流会に向けての大きな反省点となった。（資料１）

●生徒の事後感想より
自分からたくさんかかわって岡特の子も一緒に笑ってくれました。優しくしている人たちがたくさんいてうれしく思いました。でも〇〇くんがサッカーのときに怖いと言っていたので、今度私たちが東中にお招きするときは安心して楽しめるようにしたいです。（資料１）

第２回岡特交流に向けての準備で、生徒たちは第１回岡特交流の反省点を挙げ、岡特生の「ニコニコ笑顔」をもっと広げられるようにしようと考えた。自分たちとふれ合いながら岡特生がどうしたら笑顔になれるか考えて、レクリエーションや贈り物を考えた。自分のグループにいる岡特生には何ができるか考えたり、岡崎特別支援学校の先生と打ち合わせをしたりして岡特交流の内容を決めていった。ボーリングゲームではボールを転がす台をつくったり、体を動かすことができない岡特生に歌を贈ったりするなど、自分たちとかかわりながら楽しんでもらえるように様々な工夫ができた。岡特生を東海中学に迎えての第２回岡特交流では、場所が東海中ということもあり戸惑っている岡特生もいたが、レクリエーションや身振り手振りをつけた会話などでコミュニケーションをとっていく中で、徐々に互いの緊張がほぐれてきて、たくさんの笑顔が見られるようになった。宝探しや風船バレー、ボーリング、手作りの賞品など、岡特生のために準備したものを喜んでもらうことができ、生徒たちはとても充実した岡特交流になった。生徒の事後感想からもそれが読み取れる。（資料２）

●生徒の事後感想より
〇〇さんが別れるときとても嫌そうな顔をしていて、私もさみしくなりました。でもボーリングのときはたくさんストライクを取っていてすごいねと言ったら笑ってくれました。他にもニコニコ笑顔がたくさん見れて、岡特生と私たちの絆を深めることができたと思います。（資料２）

３　実践を振り返って

岡特交流を通して、生徒たちは相手を思いやり、笑顔を通わせ合う大切さに気づくことができた。岡特交流後の生徒たちの話し合いの中で「もっと岡特生や障がいを持つ人たちに寄り添って、普段困っていることを知ったり、助けたりしたい」という意見が出てきた。今後その意見を取り上げ、岡崎市内のバリアフリーを備えた施設を調べたり、訪問したりすることを通して、障がいへの理解を深めるとともに、相手を思いやって接する態度を育てたいと考えている。本実践の課題点として、岡特交流で学んだことの発信が不十分であると感じる。方法を吟味しながら、生徒たちが福祉への思いや考えを他学年や外部に伝えられる場を設定していきたい。